

## <18世紀「衣裳デザイン」アンティークプリント>

中国趣味は、ルイ14世(1638~1715)時代の宮廷から始まり、17世紀後半から19世紀前半にかけて、バロックやロココ様式美術に取り入れられたとされる。

ルイ14世と言えば、バレエの誕生・発展に大いに寄与した人物。「太陽王」の異名も、『夜のバレエ』(1653)において、自ら「太陽神アポロン」役で主演したことに由来する。1661年に世界初のバレエ学校(王立バレエアカデミー)を設立した人物である。1670年、ルイ14世が舞台から引退すると、バレエの中心は宮廷から劇場に移り、職業ダンサーの確立へと変化していった。

さて、今回展示中のアンティークプリントは、ルイ16世(1754~1793)の在位時代の衣裳デザインである。描かれた1779年は、王妃マリー・アントワネット(1755~1793)との婚礼の5年後、フランス革命が起こる10年前にあたる。そうした時代背景を鑑みながら見ると、また様々な関心・発見が得られるのではないだろうか。

## <20世紀『人形の精』ポストカード> (企画展内)

『人形の精』は、閉店後の夜の玩具店で、人形たちが生命を得て踊り出す楽しい作品。日本やスペインなどの民族舞踊と共に「中国の踊り」が組み込まれている。

初演は1888年10月4日、ウィーン宮廷歌劇場(振付ハスライター/美術ブリオシ)。様々な演出によって世界中で演じられており、アンナ・パヴロワ(1881~1931)もレパートリーにしていた。企画展内で展示中のポストカードは、1903年2月7日、エルミタージュ劇場で初演された、ニコライ&セルゲイ・レガート兄弟(1869~1937/1875~1905)版の衣裳デザイン。後にバレエ・リュスで大活躍するレオン・バクスト(1866~1924)が、舞台美術と衣裳を担当し、注目を集めた。

先述の18世紀のアンティークプリントと見比べると、皆様お馴染みのクラシック・バレエの代表作『くるみ割り人形』(初演1892年/振付プティパ/音楽チャイコフスキー)「中国：お茶の精」とも共通する、人差し指を立てた象徴的な「手のポーズ」が、印象的である。



## 兵庫県立芸術文化センター

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22

tel: 0798-68-0223 fax: 0798-68-0212

※ 禁無断転載・複製・引用

ジャポネズリ

～ 第19回 企画展「バレエと日本趣味」関連 ～

薄井憲二バレエ・コレクション常設展

vol. 63

シノワズリ

バレエと中国趣味

展示期間 /

2017年7月27日(木)～2017年9月10日(日)

企画・構成 /

関典子(薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター)

現在開催中の第19回企画展「バレエと日本趣味(ジャポネズリ)」にあわせ、第63回常設展では、「バレエと中国趣味(シノワズリ)」をテーマにご覧いただきます。

19世紀後半の「日本趣味(ジャポネズリ)」に先んじるかたちで17~18世紀にヨーロッパで流行した「中国趣味(シノワズリ)」。こちらの常設展では、18世紀後半、宮廷バレエ時代のフランスで描かれた衣裳デザインのアンティークプリントをご紹介します。ロココ調の贅沢な装飾と中国的モチーフの融合が見事な逸品です。

そして、お隣(展示室ポッケ)で開催中の企画展では、20世紀初頭のロシアで上演された『人形の精』(1903)衣裳デザイン・ポストカード(12枚組)の中に、「中国人形」の姿を発見できます。どのような共通点や違いを見出されるでしょうか。是非とも、想像力の翼を広げ、各国を旅するようにお楽しみいただければ幸いです。

シノワズリ ジャポネズリ

## <中国趣味と日本趣味>

【中国趣味：シノワズリ：Chinoiserie】……………

中国風の美術工芸品。また、それらを珍重する中国趣味。18世紀フランス・ロココ美術では、宮廷の中国趣味を反映する形で中国的装飾が多く取り入れられ、「異国趣味：エキゾティシズム：Exoticism」「東方趣味：オリエンタリズム：Orientalism」の一種として流行した。

【日本趣味：ジャポネズリ：Japonaiserie】……………

19世紀後半以降の西洋で成立した日本美術への興味・関心。また、浮世絵・書画などの美術品収集や、これを模倣した西洋人の作品を指す。当初は「日本的趣味趣向」に留まっていたが、次第に西洋の芸術文化に大きな影響をもたらし、独自の価値観へと発展した。これらは特に「ジャポニスム：Japonisme」と称される。